

今年度四月までの伯國珈琲輸出高は四百四十一萬三千六百二十七俵で、昨年同期の五百萬九十五俵に比し六十萬俵の大減退を示してゐる。珈琲局當局の方策を誤つてゐたため、一方では不自然なる單價の暴騰を招來しこれにより、伯國珈琲を輸出する相場の變動は海外市場に危険視されるに至つた。昂騰の反対勢は頗る顕著なるものがある。

第一、四半期の入超は、前年に較べ二倍以上となり、輸出も二九バーセントを激増し輸入は二九バーセントを激減し輸入は二九バーセントを激減してゐる。これを輸出入重要な商機である。

北伯主要產物

今年度四月までの伯國珈琲輸出高は四百四十一萬三千六百二十七俵で、昨年同期の五百萬九十五俵に比し六十萬俵の大減退を示してゐる。珈琲局當局の方策を誤つてゐたため、一方では不自然なる單價の暴騰を招來しこれにより、伯國珈琲を輸出する相場の變動は海外市場に危険視されるに至つた。昂騰の反対勢は頗る顕著なるものがある。

上四ヶ月輸出珈琲

昨年より六十萬俵減



主要商品市況

(五月十二日)
買 値
公一、〇〇〇
大二、〇〇〇

野菜部(コチア蔬)
五 月 三 日
售一、〇〇〇
大二、〇〇〇

主 品 市 冊

求 少 年

廿歲前後の身體強健なる
青 年 二、三名

募 集

アーチー・タス(アーチー)	トマト
アルゴドン(アーチー)	ビメン
マモーナ(アーチー)	エルヴィン
カフエ(アーチー)	ボブリーナ
アルゴドン(アーチー)	ナス
マモーナ(アーチー)	コバ・フロール
カフエ(アーチー)	ベタ・ドーゼ
アルゴドン(アーチー)	王予
マモーナ(アーチー)	コバ・フロール
カフエ(アーチー)	ベタ・ドーゼ
アルゴドン(アーチー)	王予

经验者募集

横田洋服店

聖市コンデ・ド・ビニヤール六一

集

伯國生れ十六、七歳までの少年一名を急募

集致します、委細は保護者同道の上

至急募集

面又は本人御來談下され度く

製菓見習

青 年 二、三名

一名

高給支拂ふ、御希望の方は書

西中菓子店

廿歲前後の身體強健なる
青 年 二、三名

募 集

二十一年五月十日

西中菓子店

を調査してゐられましたが、最いなどいふことは一寸考へら
近漸くその調査が完成しました。それなのですが、實際に調べてみると、表される筈ですが、その前に大略を御参考までに紹介してみます。

成績順位と割合

学校によつて採點の仕方、席次等には相違がありますが、便宜上成績順位を左の四段階に分けたその百分比を先づ採つてみますと

(一) 優等(クラスの一一番)三・〇(二) 上位(中以上のももの)五・〇(三) 下位(中以下)三七・〇(四) 劣等七・〇(數字はパーセント)となります、之れを個々の場合に就て調べますと

眼鏡を用ひない子の成績

眼鏡を用ひない子の成績は、

学校によつては一組を成績優秀の者、或る組を劣等者ばかりといふやうに分けてゐる所

-になどがれそ

眼が悪くて 眼鏡をかけないこ 学校の成績に 響くか?



刈り上げ

男の子風に
刈つた女の子

後妻うしめはちょっと男の子に見違みちがへるほどさつぱりと氣持きもちよく刈さられてゐます。これだと少々腹相はらあいが悪くとも朝の手入れが樂たのしくなります。

▽：だが短くするにしてもあまり上まで剃り上げてはかへつてをかしくなります。

▽：前髪まへんぱつは普通ふつうにとり、横は上から耳の前みみのまへへ梳くくやうにして形を整そなへます。

がありますが、此の二組を比較してみますと、優良組には斜視、近視、遠視でない生徒が一一番セントなるものに劣等組には眼の健全なるが五、八セントしかゐないので、優良組には近視、遠視、斜視が非常に多いことは生徒の智能の他に、視力といふものが學業成績に大きな關係を持つてゐる事實を物語るものであります。生徒の何バーセントが眼が悪いことのために優等組の生徒は成績が劣るかは眼が悪いことのためにはあります。良組に入れずにある者であるといふことが出来ます。

同じ服を続けると

私達は何か身體的に異體これはどうした理由
者で、たゞ、この病氣に罹り、よう、
四週間後はダメ
いつ頃から効めがなくなる?
服み續けると
同じ薬を

私達は何か身體に異常を感じたり病氣に罹るのではせうか
なつたりしたとき薬を用ひます
が何か或る一つの薬を幾日も續けて服んでゐる中に、幾ら量をふやしても、遂にはちつとも効かないくなつてくるのを、誰でもよく経験するであります、一
實は判然とした薬理はまだ解つてゐませんが、臨床上、一つ薬を同一量一週間から十日間ぐらゐ與へてみると薬の効果は全然なくなつてくるのがよくあります、一

都會の子は

KAGAKU 学科 KAGAKU

都會の子供は一方では硫酸、炭酸、磷酸等の酸が作用し、この兩者骨が細くてヒヨコしてゐます、これは平衡状態を保つて中性を呈してゐるのが普通で、勿論血液は中性です、所が一般に都會の兒童は肉類や砂糖の多いものをよく食べます、この肉類の蛋白質には硫黄が含まれてゐて、硫黄は硫酸に變化しますし、ま

泉温ウラムジ
鍼灸の神様

鍼灸道の司家 (ボンベイ延命)
官内省典藥頭白川法眼公秘法相傳宗家

上塚翁 講義
延命山 家傳秘法

磯谷龍峯 神様
本院 治湯

得業鍼灸
士勤七等
醫

カーザ・カストロ
總領事館、ブラジル拓植組合、海外
興業會社、各地小學校并に運動團體
より御勧めの聲を賜る

電車乗合自動車の通する最良住宅地長
賣出し開始、場所バイロ・デ・ピラ・
リアーナ、地權確實、御希望の御方に
何時でも書類御見せ致します

北バラナ・サンパウロ・バラナ線ローランジア開
館工所 旅館 丸石兄弟工場

◆◆◆
其 他 農 具 一 式
賣 販 造 製 ◆◆◆

新入荷 工業日本が誇りとする
皆様のエンシャーダに御道具に先づ一本
御試用願ひます

日本一壺万ヤスリ 完全に御満足を得て

皆様の御後援で ブラジル市場へ輝しい
活躍を期待して居ります

…『値段表御申越次第御送り致します』…

二重瓶式噴霧器 ブラジル
虫コロン、殺虫剤 一手販賣
「壺万印」 やスリ

破魔兄弟商会 Rua Paula Souza, 124 - São Paulo
Caixa Postal 3537

CHUOTO

力療治の果効合券きくべく驚

婦人病の原因療法

自然に生れる青春美

婦人は家庭の被服業者で、早く治療を要します。然も婦人は、根本を治めて居るので、その療法は、根本から治す原発法を選ばねばならぬことは時代の進歩した今日の常識です。一時的の局部的手當では、治療の目的を達し難いのです。茲に歴史ある中将湯は、血管と骨盤、新陳代謝を旺盛に、ホルモン分泌を調節し全身細胞に活動力を與へ、即ち、効果を綜合的に、全身に作用して、病氣を根本から治すのです。又病根を断ち、ホルモン分泌を旺盛にする結果こそ、に繋がる眞の女性美を發揮します。

婦人病は家庭の被服業者で、早く治療を要します。然も婦人は、根本を治めて居るので、その療法は、根本から治す原発法を選ばねばならぬことは時代の進歩した今日の常識です。一時的の局部的手當では、治療の目的を達し難いのです。茲に歴史ある中将湯は、血管と骨盤、新陳代謝を旺盛に、ホルモン分泌を調節し全身細胞に活動力を與へ、即ち、効果を綜合的に、全身に作用して、病氣を根本から治すのです。又病根を断ち、ホルモン分泌を旺盛にする結果こそ、に繋がる眞の女性美を發揮します。

中将湯

(各地有名薬店にあり)

瀬木商店

代理店 サンパウロ市 東京・大阪

主 効
月經不順 下腹痛 腰足冷
逆上頭痛

子宮病 淋漓症 痛經 感冒
産前産後 憋氣 切迫性早産

會社本鋪 株式会社 遠村順天堂

晴れの文化使節着聖 十四日法科大學で講演

重工業使節

人員十五名と決定
五月下旬訪伯の途

線上向際國るひ

太古の夢再現の会の歓迎會に出席明夜は九時より

熱意に燃えて來伯した文化使節

鳥居博士及び令

息龍次郎氏はミ

ナス州ラゴア・

サノタの選勲を視察した後上日

午前九時よりリオ出發、既報

の如く翌十一日

午前サンパウロへ到着、中南米市

に第一步を踏んで

が疲れを休め

る暇もなく直ち

に文部長官、博

物館長文理大學

を訪問着聖の挨

拶を述べた後同

所の手で人質詮行を行つたが、最近各方面の代表者十

人は市毛助氏等

は市總領事主催でブラジル人

が官邸に於て開かれた

出席者は州統領代理ジョアン

ジ・クアド・大尉はじめと

し第二軍團長代理、州兵團長

長代理、サンタカザ閣長、

文書学者ガレルメ、アルメイダ

氏、美術學校長、法科、醫科

各大學長、英國、智利兩國

領事、人類學及び傳說學文

長マリオ・デ・アンドラー、デ文

科教授及び會員等その他の名士

五、六十名が出席し近來にな

き盛んな集りであつた

なほ博士は日本會主催の歡迎

及び講演會を終へた後十三日は

休養し十四日午後古代文化同好

の如く翌十一日

午前サンパウロへ到着、中南米市

に第一步を踏んで

が疲れを休め

る暇もなく直ち

に文部長官、博

物館長文理大學

を訪問着聖の挨

拶を述べた後同

所の手で人質詮行を行つたが、最近各方面の代表者十

人は市毛助氏等

は市總領事主催でブラジル人

が官邸に於て開かれた

出席者は州統領代理ジョアン

ジ・クアド・大尉はじめと

し第二軍團長代理、州兵團長

長代理、サンタカザ閣長、

文書学者ガレルメ、アルメイダ

氏、美術學校長、法科、醫科

各大學長、英國、智利兩國

領事、人類學及び傳說學文

長マリオ・デ・アンドラー、デ文

科教授及び會員等その他の名士

五、六十名が出席し近來にな

き盛んな集りであつた

なほ博士は日本會主催の歡迎

及び講演會を終へた後十三日は

休養し十四日午後古代文化同好

の如く翌十一日

午前サンパウロへ到着、中南米市

に第一步を踏んで

が疲れを休め

る暇もなく直ち

に文部長官、博

物館長文理大學

を訪問着聖の挨

拶を述べた後同

所の手で人質詮行を行つたが、最近各方面の代表者十

人は市毛助氏等

は市總領事主催でブラジル人

が官邸に於て開かれた

出席者は州統領代理ジョアン

ジ・クアド・大尉はじめと

し第二軍團長代理、州兵團長

長代理、サンタカザ閣長、

文書学者ガレルメ、アルメイダ

氏、美術學校長、法科、醫科

各大學長、英國、智利兩國

領事、人類學及び傳說學文

長マリオ・デ・アンドラー、デ文

科教授及び會員等その他の名士

五、六十名が出席し近來にな

き盛んな集りであつた

なほ博士は日本會主催の歡迎

及び講演會を終へた後十三日は

休養し十四日午後古代文化同好

の如く翌十一日

午前サンパウロへ到着、中南米市

に第一步を踏んで

が疲れを休め

る暇もなく直ち

に文部長官、博

物館長文理大學

を訪問着聖の挨

拶を述べた後同

所の手で人質詮行を行つたが、最近各方面の代表者十

人は市毛助氏等

は市總領事主催でブラジル人

が官邸に於て開かれた

出席者は州統領代理ジョアン

ジ・クアド・大尉はじめと

し第二軍團長代理、州兵團長

長代理、サンタカザ閣長、

文書学者ガレルメ、アルメイダ

氏、美術學校長、法科、醫科

各大學長、英國、智利兩國

領事、人類學及び傳說學文

長マリオ・デ・アンドラー、デ文

科教授及び會員等その他の名士

五、六十名が出席し近來にな

き盛んな集りであつた

なほ博士は日本會主催の歡迎

及び講演會を終へた後十三日は

休養し十四日午後古代文化同好

の如く翌十一日

午前サンパウロへ到着、中南米市

に第一步を踏んで

が疲れを休め

る暇もなく直ち

に文部長官、博

物館長文理大學

を訪問着聖の挨

拶を述べた後同

所の手で人質詮行を行つたが、最近各方面の代表者十

人は市毛助氏等

は市總領事主催でブラジル人

が官邸に於て開かれた

出席者は州統領代理ジョアン

ジ・クアド・大尉はじめと

し第二軍團長代理、州兵團長

長代理、サンタカザ閣長、

文書学者ガレルメ、アルメイダ

氏、美術學校長、法科、醫科

各大學長、英國、智利兩國

領事、人類學及び傳說學文

長マリオ・デ・アンドラー、デ文

科教授及び會員等その他の名士

五、六十名が出席し近來にな

き盛んな集りであつた

なほ博士は日本會主催の歡迎

及び講演會を終へた後十三日は

休養し十四日午後古代文化同好

の如く翌十一日

午前サンパウロへ到着、中南米市

に第一步を踏んで

が疲れを休め

る暇もなく直ち

に文部長官、博

物館長文理大學

を訪問着聖の挨

拶を述べた後同

所の手で人質詮行を行つたが、最近各方面の代表者十

人は市毛助氏等

は市總領事主催でブラジル人

が官邸に於て開かれた

出席者は州統領代理ジョアン

ジ・クアド・大尉はじめと

し第二軍團長代理、州兵團長

長代理、サンタカザ閣長、

文書学者ガレルメ、アルメイダ

氏、美術學校長、法科、醫科

各大學長、英國、智利兩國

領事、人類學及び傳說學文

長マリオ・デ・アンドラー、デ文

科教授及び會員等その他の名士

五、六十名が出席し近來にな

き盛んな集りであつた

なほ博士は日本會主催の歡迎

及び講演會を終へ

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Nipponico de maior circulação no Brasil

Ano XXIII

S. Paulo - 5.ª-feira 13 de Maio de 1937

Num. 1.143

NIPPAK SHIMBUN

PROPRIETÁRIO
SACK MIURA
DIRETOR
Masaki Uchihara
GERENTE
Alfredo Takeuchi

Redacção - Administração e Oficinas
Rua Maestro Cardim, 169
Telephones: 7-3325 e 7-3326
Caixa Postal, 375
Endereço Telegráfico: "Nippak"

SUCCURSAL:
Rue Conde do Pinhal, 164
Telephone 2-3928
SÃO PAULO - Brasil

Assinaturas
PARA O BRASIL
Por anno 80.000
Por semestre 16.000
Número avulso 8.500
PARA O EXTERIOR
Por anno 60.000

Anúncios
Temos à disposição dos interessados
uma tabela completa de preços para
anúncios nesta folha

A porcentagem de aumento de
população no Japão baixou no
3.º trimestre de 1936

Tokio, Março — Paiz de super-população, como é conhecido o nosso, a porcentagem progressiva de aumento de sua população vem amedrontando o resto do mundo. Agora, porém, esse «perigo» ficou reduzido, segundo os dados fornecidos pela Secretaria de Estatística: (Julho/Setembro de 1936)

Nascimentos 472.393

Diferença para me-
nos em relação ao
igual período de 1935 20.177

Óbitos 308.810

Diferença para mais
em relação ao igual
período de 1935 5.096

Augmento natural nos
9 primeiros meses de
1936 678.047

Diferença para me-
nos em relação ao
igual período de 1935 82.191

Notícias e telegrammas do Nippon

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN e dos Jornais)

A situação política

Os partidos políticos querem a demissão
do gabinete Hayashi

O Minseito e o Seiyukai, que formam a maioria
da Câmara, fazem uma campanha decidida
contra o governo.

Tokio, 11 — O Seiyukai reuniu hoje, uma reunião dos
seus deputados, tendo resolvido,
nessa ocasião, adoptar a sua ver, a Dieta e a attitudede
do mesmo após as eleições,
nas quais o povo se manifestou
claramente contrario ao
governo. Disse a seguir que
o povo não podendo confiar
no Ministério, deu a maioria
absoluta aos partidos políticos
que o governo não empregava.
No entretanto, parece que,
além do referido assumto, o
Sr. Sugiyama falhou a respeito do resultado das eleições,
afirmando que as eleições
não tiveram como finalidade
lutas entre partidos
anti-governamentais e partidos
favoráveis ao governo;
mas que a finalidade foi unicamente
e exclusivamente fazer com
que os diversos partidos
políticos se inteirassem da
situação política do Império.

Accredita-se que tenha dito
ainda que o governo previra
a vitória dos velhos partidos,
como Minseito e Seiyukai,
mas que isso não implicava
a demissão do gabinete, pois
não havia nenhuma significação
teria a recente dissolução da
Dieta, e que o governo deve
até a proxima sessão extraordinária
da Dieta, cuidar de
pôr em execução os items do
seu programa.

"Em nome do povo" o
Minseito deseja a
demissão do gabinete

Tokio, 7 — No discurso
hoje pronunciado perante a
assembléa dos deputados do
Minseito, o secretário geral
deste partido, sr. Aodo con-

demou energicamente o acto
do gabinete Hayashi em dis-
solver, sem motivo plausível,
a sua ver, a Dieta e a attitu-
de do mesmo após as eleições,
nas quais o povo se manifes-
tou claramente contrario ao
governo. Disse a seguir que
o povo não podendo confiar
no Ministério, deu a maioria
absoluta aos partidos políticos
que o governo não emprega-
va.

No entretanto, parece que,
além do referido assumto, o
Sr. Sugiyama falhou a respeito do resultado das eleições,
afirmando que as eleições
não tiveram como finalidade
lutas entre partidos
anti-governamentais e partidos
favoráveis ao governo;
mas que a finalidade foi unicamente
e exclusivamente fazer com
que os diversos partidos
políticos se inteirassem da
situação política do Império.

Accredita-se que tenha dito
ainda que o governo previra
a vitória dos velhos partidos,
como Minseito e Seiyukai,
mas que isso não implicava
a demissão do gabinete, pois
não havia nenhuma significação
teria a recente dissolução da
Dieta, e que o governo deve
até a proxima sessão extraordinária
da Dieta, cuidar de
pôr em execução os items do
seu programa.

**O titular do Exército conferen-
ciou com o 1.º ministro acer-
ca da situação política**

Tokio, 6 — Devido à criti-
ca situação política que atra-
vessa o Japão, a entrevista do
Ministro do Exército, Sr. Sugiyama, com o Ministro

Impressos?

Procure a

TYP. "NIPPAK"

Rua Maestro Cardim, 169

São Paulo —

Hayashi, era já esperada
com real atenção em todos
os meios.

Julgava-se que o Sr. Sugiyama teria relatado ao Sr. Hayashi o programa político japonês, em relação a Manchukuo, pedindo o apoio do chefe do gabinete.

No entretanto, parece que,
além do referido assumto, o
Sr. Sugiyama falhou a respeito do resultado das eleições,
afirmando que as eleições
não tiveram como finalidade
lutas entre partidos
anti-governamentais e partidos
favoráveis ao governo;
mas que a finalidade foi unicamente
e exclusivamente fazer com
que os diversos partidos
políticos se inteirassem da
situação política do Império.

Accredita-se que tenha dito
ainda que o governo previra
a vitória dos velhos partidos,
como Minseito e Seiyukai,
mas que isso não implicava
a demissão do gabinete, pois
não havia nenhuma significação
teria a recente dissolução da
Dieta, e que o governo deve
até a proxima sessão extraordinária
da Dieta, cuidar de
pôr em execução os items do
seu programa.

ASPECTOS DE TOKIO

XII

As pontes — A cidade que possue 3.800 pontes — A «Kachidoki bashi».

Tokio é a cidade das pontes. A binação harmoniosa das linhas rectas e curvas, o material judiciosamente escolhido, a impressão de firmeza devem ser atributos indispensáveis de uma ponte moderna. Com todos estes característicos, as pontes constituem, indiscutivelmente elementos colaboradores para realçar a beleza de uma metrópole hodierna.

Na antiga cidade, existiam 630 pontes apenas. Entretanto, pelo plano de expansão da capital, esse número cresceu para 3.800!

O numero de pontes sextuplicou-se, depois do terremoto de 1923. Aqui temos um outro indice da tecnicidade invencível do nipônico. Acha-se em construção, actualmente a maior ponte do Oriente: a «Kachidoki bashi», cujo comprimento é de 246 metros e cuja largura mede 22 metros. Esta ponte abre no centro numa extensão de 44 metros, para dar passagem a navios de até 2.000 toneladas. Esta «Kachidoki bashi» ficará pronta em 1939. Então teremos mais uma atração desta metrópole.

O professor Ryuzo

Torii em S. Paulo

O enviado cultural nipônico realizará duas conferências na Universidade de S. Paulo e promoverá pesquisas científicas sobre os sambaquis no litoral paulista.

Pelo «Cruzeiro do Sul» chegou, no dia 11, a São Paulo, o professor Ryuzo Torii arqueólogo e antropologista nipônico de renome universal que vem em missão cultural do governo japonês, sob os auspícios do Instituto Cultural Nipo-Brasileiro.

O eminentíssimo cientista viajou acompanhado de seu filho, Ryujiro Torii que também se dedica aos mesmos estudos.

No mesmo dia da sua chegada a esta capital, o professor Torii, depois de ter estado no consulado geral do Japão, visitou o Museu do Ipiranga, onde teve a oportunidade de palestrar com o director do estabelecimento, sobre temas científicos; a seguir o ilustre sabio patrício, foi cumprimentar o professor Almeida Prado, vice-reitor da Universidade de S. Paulo, levando os seus agradecimentos antecipados por ter o conspicuo professor paulista deliberado presidir à reunião em que o professor Torii pronunciaria a sua primeira conferência na Universidade de S. Paulo, às 21 horas do dia 14.

O professor Torii visitou também o secretário da Educação, a quem agradeceu a designação de um funcionário especialmente para as pesquisas que o cientista nipônico vai realizar em Iguape e adjacências. Antes de ir ao litoral paulista, o professor Torii fará uma excursão a Villa Nova, Município de Araçatuba, com o objectivo de efectuar também pesquisas arqueológicas.

No litoral, s. s. fará estudos especiais sobre os sambaquis, pelo espaço de uma semana.

Em declarações aos representantes da imprensa desta capital o eminentíssimo professor nipônico teve o ensejo de enviar a sua cordial saudação ao povo paulista.

Recepção na residência do sr. consul Itigé

O consul geral do Nippon, sr. Kozo Itigé e senhora ofereceram, às 21 horas do dia 11, em sua residência, à rua Piauhy, 844, uma recepção ao illustre antropólogo e arqueólogo.

Na referida recepção, além de altos funcionários do consulado e elementos de destaque da colónia, notava-se a presença das seguintes pessoas: capitão João de Quadros, representando o sr. governador do Estado; sr. Carlos de Rezende Junqueira, em nome do secretário da Educação; sr. Joaquim Alves Feitosa, pelo secretário da Justiça; capitão Jayme Bueno de Camargo, pelo commandante geral da Força Pública; sr. prof. Francisco Morato, director da Faculdade de Direito; Paulo Lopes de Leão, director da Escola de Bellas Artes; sr. Mario de Andrade, director do Departamento de Cultura, consul da Argentina e senhora, sra. Ophelia Ferrazdo Amaral; Guilherme de Almeida e Azevedo Filho.

